

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団福本会福本病院		
事業所名	グループホーム和楽		
所在地	熊本県天草市牛深町1641-4		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年12月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は町の中心部の小高い丘の上であり、緑に囲まれて中庭には桜の木を中心に季節を感じる花を見たり、小鳥の姿や鳴き声も聴くことができる場所にあります。また、各ユニットの居室やリビングからは色鮮やかに紅葉していく景色も見ることができます。秋まつりや行事ことでは、地域の子供会や保育園の園児達が来てくれて入居者の方も毎回、元氣と笑顔をもたらえ大変喜ばれており地域の方との交流も深めています。中庭の一部には、野菜畑があり、季節の野菜を作りを一緒にして、沢山収穫できた野菜など、ご近所の方や運営推進委員の方にお配りし喜んでいただくことで、次への楽しみに繋げています医療面の連携においても永年地域で医療に取り組んでいる母体の病院があり、入居者の方の急な異変、異常があれば、すぐに連絡すれば診てもらえ対応してもらえるので、入居されている家族

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

海とともに生きてきたこの町で、入居者は長年見聞きしたハイヤの歌や踊りに触れ、慣れ親しんだ風景や地元料理に支えられ、ホームの生活を楽しんでいる。開所時より10余年の歴史は入居者のできることを狭めてはいるものの変わらず地域へ出て人々と触れ合い、ホームに訪れる人々との出会いを心待ちにしている。継続して開催されてきた運営推進会議には現在行政からも直接参加があり、ホームの問題に留まらず高齢者を取り巻く現状を地域社会全体で考える機会となっている。母体医療機関や訪問看護との連携により夜間帯や緊急時の対応を安心なものとし、心配な点があればその都度指示を仰ぎながら入居者の現状と向き合い、何より普段の表情や動作で職員自身が変化を見逃さないよう努力している。職員と共に小さな坂道を下りながら、行きつけの商店でおやつ購入をする風景が今後も続くことを切に望みたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和やかに楽しく」のサブテーマを見やすい位置に掲げることで職員全員が理念の共有ができサービス提供に繋がっています	開設当時の理念『和やかに楽しく』は、職員会議にて毎年見直され、ホームの道しるべとなる指針として継続することが決定されている。ホームのこれまでの取り組みは運営推進会議や地域行事等で人々が集まる中に発信され、しっかりと認知されている。職員異動で配属される経験の浅い職員にも、まずはホーム内をしっかりと見てもらうことからスタートしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方や老人会の方等誕生会や行事の参加へと招待してもらい、地域の方と久しぶりに会い楽しい時間を過ごすことで日常に交流できています	入居者は職員と共に日用品や嗜好品の買い物に出かけ、地域の人々と接する機会を持っている。運営推進会議のメンバーでもある地元代表者からの老人会での“誕生会”に参加したり、ハイヤ祭りなど古くからの伝統行事にも地域の一員として出かけている。また、様々なボランティアの来所は入居者の生活にハリと潤いをもたらし、職員もまた認知症の啓発活動に尽力し地域福祉に貢献している。	引き続き中学生のナイスライなどの受け入れを打診することで、交流の機会が更に広がるものとする。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新人の職員は認知症の勉強会に参加したり、職員の中にはキャラバンメイトの活動にも参加しています	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方には意見やアドバイス等を会議の中でももらうことが沢山ありサービスの向上につながっています	開設時より2か月ごとの定期開催が実現しており、行政や地域・家族の代表者が参加している。行政の書式に沿い、入居者や地域交流の現状を紹介し、事故や苦情についても詳細に報告することでホームの透明性を図っている。年度当初には参加者にホーム内を見てもらい、パワーポイントで年間行事の様子を紹介することで、入居者の日頃の様子や職員の関りを発信するなど会議への工夫がみられる。	毎回ではないが会議には法人関係者も参加しており、両ユニットの責任者ばかりではなく、職員も輪番で参加できるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談したいことがあれば直接電話をして行政の方に協力してもらっています	運営推進会議へ行政が参加することで、市の情報や会議資料の確認の必要性など適切な助言が得られている。管理者は書類の提出や不明な点があれば役所へ出向き、担当者と直接顔を見て話しをしている。また、安心相談員の来所を通じて入居者の思いを収集し、支援に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1, 2回は勉強会になるべく参加できるようにしている、言葉による拘束は常に意識して日々のケアに努めています	法人全体の研修会や外部研修に参加し、身体拘束や虐待に対する認識を深め共有している。研修内容は運営推進会議でも紹介し、参加者と共に考える時間を持っている。更にホーム内に「拘束0宣言」を掲げ、職員は気になる点やメディアの情報などから実例をあげ、身近な問題として日々のミーティングで話し合うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会に参加している、また、日頃から話し合う時間を設け意見を出し合って虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し理解を深めることに役立てており、職員間でも学び、理解してもらい、いつでも活用できるよう話し合っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をとり、条文についてひとつずつ説明を行います、質問や意見を伺い、理解いただいた上での契約をおこなっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や入居者の方に関わりのある方等と気軽に話ができ、意見や要望があれば、すぐに職員間で話し合い運営に反映させます	職員は運営推進会議や面会時に直接家族の意見や要望を尋ね、収集した内容を確認しながら、ホーム運営に反映させている。遠方の家族には“和楽通信”でホームの現状を発信し、電話などで尋ねるようにしている。入居者の意見は日々の生活の中でゆっくり話を聞きとり、支援に活かしている。	家族の要望を更に掘り下げる手段として、“アンケート”を実施することも検討の余地があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員での話し合いを行い、意見や提案があれば、運営に反映させています	長年に渡る職員のチームワークは、何でも言える関係を作っており、普段から風通しの良い運営を続けている。希望休に対する勤務体制の調整や資格取得への支援など法人の力を仰ぎながら、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があれば、その都度話し合い、働きやすい環境への取り組みを行っている、また、本人が努力したことや実績について、人事考課表を用いています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内で行われている勉強会へ参加できるよう配慮している、また、ステップアップに繋がるよう積極的な資格習得を勧めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH連絡協議会に所属、他施設の訪問や意見交換を行い情報は公表し職員のサービスの質の向上を目指し共有しています		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や不安に思っている事、どんな暮らしがしたいかをご本人様や家族の方と十分な話し合いの場を設け要望等、職員と共有して安心できる関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の今までのライフスタイルをご家族様より聞かせて頂き、その上で家族の方の困っている事や不安を解消できる様なサービス提供することで安心していただける様な関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思いを良く聞かせて頂き、「一番に必要なも支援は何か」を見極めながら生活の変化に戸惑いや混乱が無いような対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「出来ること」に応じた作業と一緒に行うことで暮らしを共にする関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月の通信紙に一人ひとりの生活の様子や気付き等を手紙に書いて添え、些細な事でも家族の方に報告して共に本人を支えていく関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の来訪があり、行きつけの美容師やお店へ買い物に出かけられる、又、気軽に来訪できる環境作りに努めています、地元の祭りを見学されたり、子供神輿も施設内に来てくれています	入居者は面会に訪れる家族や知人の来所を心待ちにしており、職員はその都度ゆっくり過ごしてもらい様声かけをしながら、次の面会を依頼している。馴染みの人々と伝統行事や地域の催し事で顔を合わせ、同じ時間を共有している。また、慣れ親しんだ海の幸(きびなご・イワシの煮つけなど)の提供も楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で一緒にレクに参加したり、協力して作業をおこなったりとお互いに支え合える様な支援に努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は母体の病院に入院される方が主な為、病院への情報提供やお見舞いへ行き、家族の方と話をすることで相談や支援ができるよう努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や動作や表情から、本人の思いや意向をくみ取り思いに沿った支援ができるように努めています	職員は1日の中に入居者一人ひとりとゆっくり過ごす時間を持つように心がけており、長い関りから言葉を発せられなくても表情やしぐさで思いが伝わる関係である。入居者の意向はケア会議にあげながらプランにつなげ、本人の思いを最優先に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報で生活歴の把握に努め日常の支援に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態に合わせた活動支援を行い日々の記録から現状把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が毎月の状況のまとめを行いモニタリングに活用している。又、担当者会議において現状報告や本人、家族、スタッフ等の意見を反映し介護計画の作成を行っています	職員を入居者の担当制としており、普段の入居者との関りから暮らし方の希望を聞き取り情報を共有しながらプラン立案につなげている。咀嚼が難しくなった入居者へは、他者との食事形態の違いを気にされぬよう一度は原形の状態を見てもらい、納得の上キザミ食にするなど工夫している。計画作成担当者は家族へわかりやすくプラン内容を説明したのち、承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの結果や気づきを記録し申し送りや話し合いで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの個性に合わせ、また状況に合わせた対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しい時間を一人ひとりの方が過ごして頂けるよう地域の方とのふれあいを大切に、行事へ出掛けたりと暮らしの楽しみができるよう努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院のため、月一回の受診を行い、異常のある方はいつでも対応できる体制ができていますので、適切な医療を受けられるよう支援しています	母体医療機関をもともとかかりつけ医とされていた方が殆どであり、引き続き月1回の受診が行われている。職員はバイタルチェックや表情観察、訪問看護との連携により、入居者の健康管理に努めており、何か気になることがあれば、早めに受診や主治医の指示を仰いでいる。専門医など他科受診については、基本的に家族に依頼しているが、困難な場合は、ホームでも柔軟に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はもちろん、夜勤帯でも異常や変化があれば、ナースに連絡している、又、月二回の訪問看護師には心配事や気になることは相談、報告することで適切な受診等ができるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が不安になられない様安心して治療できるよう情報の提供を行い家族の思いも含め本人様の意向に添えるよう主治医や看護師等との話し合う場を設けることができます		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況報告(健康管理・受診等)のお知らせは行っている、異常や緊急事は家族の方に連絡をしており、必要時は主治医・家族・職員で話し合い、事業所のできる支援に取り組んでいます	入居時に終末期支援は行っていないが、医療機関と連携を図りながらホームに出来るギリギリまで対応することを説明している。また、本人や家族の思いはその都度確認している。また、家族より相談事を受けた場合は、職員間で話し合ったり、内容によっては主治医に報告を行い、受けた指示などを家族へ伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人において、研修や院内の勉強会に参加することで急変や事故防止の応急処置や初期対応のシミュレーションを定期的実践しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1/回の火災訓練を実施し、消防署・設備機器の業者や近隣の方の協力を得て訓練ができており、安全な非難口や避難の方向の確認をおこなっています。	年2回火災予防訓練を実施しており、訓練には消防署・消防設備業者・近隣住民の参加協力が得られている。訓練の中で火元に近い場所から避難してしまったなど、出された指摘事項は次回に活かすことを共有している。消火器の使い方訓練は入居者も実際行っており、「いざという時、使いきらんばやいでな！」と感想を述べられている。火災は火を出さないことが一番であり、安全チェックを徹底している。	昨年の熊本地震ではホームに大きな被害はなかったようであるが、今後も自然災害についても対応を検討していかれることを期待したい。また、備蓄については、法人に加えホームでもリストを作り準備されることが必要と思われる。災害訓練を運営推進会議の中で行ってみることで、より多くの意見や提案が今後の課題として活かされるものと思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にスタッフの言葉かけには誇りやプライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重した生活を送ってもらえる様に努めています	一人ひとりの人生を尊び、安心して過ごしてもらいような対応を全職員が共有し日々の支援に努めている。呼称は苗字や下の名にさん付けなど、希望や反応に応じて決定している。職員はプライバシーの確保や守秘義務の徹底について、会議などで周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が日常生活の中における希望を理解する事に努め自己決定できるように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合ったケアを大切に、その人らしい暮らしと希望にそった支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ出掛けたり、出張してもらいながらその人らしい身だしなみやオシャレの支援をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べていただける様に、一人ひとりに合った食事の提供に努めている、食事の片づけも職員と一緒に手伝ってくださる時もあります	法人厨房からの食事提供が中心であるが、日曜日は入居者の希望や季節感を取り入れたものをホーム内で調理している。この日は地域商店へ食材購入に出かけたり、台所からの音や匂いも食欲を増し、楽しい食事支援となっている。入居者も普段から味見や洗剤物など出来ることで事で食への関りをもっており、ホームの畑では大根やさつまいも・とうもろこしなどを育て、収穫後は、食材に活用されている。食事形態も個々の嚥下力に応じて準備されている。	ウッドデッキでランチを楽しむ機会が広報誌にも掲載されている。せっかくの紹介の場面であり、エプロンを外したものを載せるなど配慮も必要かと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの状態を把握し、水分補給が困難な方には、ゼリーにして提供しその時の状態に合わせて摂取していただいている、食事の入らない方がいれば、栄養士に相談し対応してもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行ってもらっており、一部介助、全介助して口腔内の清潔保持を保っています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のプライバシーを配慮しスタッフ全員一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導行い見守り介助して、自立に向けた支援をしています	排泄は個々の尊厳に繋がる支援であり、職員は一人ひとりのパターンや支援方法を共有し、自立の方の継続や声かけ・誘導を行っている。排泄用品の組み合わせや個別支援の充実は、家族の負担軽減にも繋がっている。トイレ内は清潔を心掛け、使用時の不快感もないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸に心掛け、食物繊維の食べ物や飲み物等水分補給に努め個々に応じた予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けや脱衣所での拒否が見られる時は時間をおいて再度声掛けしたり入ろうと思えるような雰囲気づくりに努め、個々に沿った支援をしています	毎日入浴の準備を行っており、殆どの方が週3回入られており、拒否がある場合は、時間をずらして再度声かけを行っている。一般浴と、機械浴が設けられ、身体状況に応じて支援されている。シャワー浴の場合、冬場は特に冷えないようかけ湯を十分行いながら進めている。入浴剤を使用したり、菖蒲・柚子湯を行う場合は、数日実施し全員が楽しめるようにしている。	菖蒲や柚子湯に加え、身近な花や柑橘などを使った変わり湯なども取り入れてはどうだろうか。職員の工夫によって入浴が清潔保持に加え、一人ひとりにとって楽しみなものとなることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調に合わせた休息を取ってもらっている、マットレスの工夫をしたり、寒い冬は湯たんぽを提供して安眠されています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋と照らし合わせて確認を行い効能や容量を理解し服薬支援をしている、症状の変化や異常があれば母体病院と連携した支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や趣味に応じた活動を通して喜びや自信に繋がる支援をしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところがあれば、職員と一緒に付き添って出かけている、また、地元の祭りがあれば家族の方と出かけられる方、法事等で出かけられる方がおられ、老人会の誕生会に招待され出かけたりされているのでいつでも出かけられるよう支援しています	地元の祭りやイベント(牛深ハイヤまつり、あかね市・横田良一祭など)への見学や参加は、人々との交流を楽しみながら地域の良さを改めて感じる機会となっている。今月はハイヤ大橋へのイルミネーション見学も予定されている。日曜日のホーム調理日に合わせて、食材購入やたい焼き屋さんへのおやつ購入など、地域商店への外出は継続されている。また、寒い時期も小春日和には努めて中庭で体を動かしたり、日光浴を行っている。家族の協力としては、定期的に理美容室や祭りに出かけられる方もおられる。	入居者の高齢化や重度化も進む中、遠出や車を使った外出の機会も困難になっていくと思われる。身近な外出として今後も中庭を活用したいとしており、職員のアイデアや工夫によって外出支援が展開されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能である方は一緒に同行して支払いを見守りしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば家族に電話をかけたり、家族から電話があれば必ず、会話してもらっている、また、手紙が来れば本人に渡したり、読んだりして手紙のやり取りができるように対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂は広く待たなくてもいい様にゆっくり入れるようになっており、中庭に季節を感じることができる植物等あるので皆さんと見に出かけたりして心地良く過ごせる工夫をしています	両ユニットは介護度も異なり、職員は歩行や車椅子利用者の状況に応じ、身体機能が維持できる環境や安全面に配慮した空間に努めている。中庭を囲んでユニットが建っており、日常はそれぞれが一軒一軒の家として過ごしているが、弐番館に集い運動会を開催したり、秋祭りの子供神輿を中庭で迎えるなど、交流の機会も多く入居者にメリハリのある時間を提供している。リビングや廊下に掲示された外出やイベント時の写真、手作りの椅子カバーなど、それぞれのユニットが工夫を行っている。	経年と共に物品が増えたり、掲示物・飾り物の損傷も出てくることから、今後も定期的な見直しの機会を持たれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に椅子を置いて気の合う方々のお茶会や、ソファに座ったり、横になったりされる方がいるので好きな場所で好きなことを過ごしてもらえるよう見守りながら居場所の工夫をしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花が好きだからと家族の方が季節の変わると共に持って来て本人様とお世話されたりしてご本人が心地良く過ごせる工夫をしています	これまで自宅にあった慣れ親しんだ物を持ち込んで欲しいと伝えているが、家族の中にはホームでの生活をスタートとして、新しく準備される方も多くなっている。居室で楽しむためのテレビや着慣れた衣類など必要な品の持ち込みをはじめ、自分の部屋が分かるよう、目印の大きな花を飾りつけるなど、本人が安心して過ごせる妖怪ウォッチ家族の協力が得られている。職員は掃除や換気をはじめ、衣替えについては家族にも依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等利用者の高さに合わせた手すりの設置がしてあり自立歩行に役立っている、日のあたるソファ等では気の合った方々との憩いの場として活用しています		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の名称である「和樂」が、理念となっています。和やかに楽しくの基本理念は、わかりやすく日々のケアに生きたテーマとして浸透しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の殆どの方が地域住民であり、これまで暮らしてこられて馴染みのお店へでかけたり、老人会や中学生の交流に招待していただいたりと施設の行事に近隣の人に参加していただくなどの交流を持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて相談をうけたり、認知症家族の会へ参加するなど、認知症などについての相談を伺っています。また、キャラバンメイとしての地域ボランティアへ参加をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況の報告を行い、アドバイスや質問等をいただき運営に反映させています。消防の方から災害や高齢者の事故等についての報告や施設についてのアドバイスをいただいたり、地域行事へのお誘いをいただいたりしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、高齢者支援課の職員や、行政代表として地域包括センターの職員にも参加していただいております。日頃の相談にも応じていただいております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていませんが、直接的拘束以外についても理解を深め、申し送り等において日頃から話し合う機会を設け言葉かけにも注意をはらっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会に積極的に参加できるようにしています。また、日頃から御家族や職員の悩みや相談事を気軽にできる雰囲気作りや声かけに努めて		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し理解を深める事に役立っている。利用者の中には制度の利用を考えられている方もあり身近な問題としてとらえ制度についての話し合を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい雰囲気の中で、一項目ごとに分かりやすい書面にて説明を行っています。また不安や不明な事があれば説明を行い、十分にご理解のもとに契約をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より意見や要望を気軽に相談できる雰囲気関係作りに努めています。月に一度の情報誌とともに近況の様子や行事の報告をおこない感想や意見をいただいております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づいた事や意見などは、そのつど話を聴き意見交換をおこない運営に反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があれば、その都度話し合い働きやすい環境への取り組みを行なっています。また本人が努力した事や実績について人事考課表を用いて評価をおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内で行なわれている勉強会へ参加できるよう配慮しています。また、ステップアップにつながるよう積極的な資格習得を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属し、他施設の訪問や意見交換をおこなっています。情報は公表し職員のサービスの質の向上を目指して共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活環境や生活スタイルを把握し、利用者様が安心して暮らしができるように話しやすい雰囲気や環境をつくり努め、思いに沿い信頼関係が築ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望などお話を十分に聞き支援に生かせるよう話し合い、適切な対応をして信頼関係を築けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い状況等を確認して必要とされているサービスを受けられるよう相談にのり又、サービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年行なってこられた季節の料理や行事など、教えていただくことも多く楽しみを持って一緒に行ない自身や信頼に繋がるように過ごしていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と一緒に参加できる行事をおこなったり町の祭りに同行していただいたり家族と一緒に楽しんでいただける機会や施設での暮らしを見ていただける行事へお誘いしています。また、様子をお知らせしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やお店へ出かけたり、地域の散策に出かけるなどの支援をしています。また、手紙を書いたり、気軽に訪れられる雰囲気環境づくりに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の交流を見守り活動を支援しています。またコミュニケーションの出来ない方はスタッフが仲介者となり楽しい時間に参加できるよう取り持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていたご家族が来訪し近況を知らせてくださることもあります。また、母体病院に入院された利用者を見舞い近況を御家族と話したり心配事の相談にのっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からその方の希望や意向を汲み取り、その方らしい生活ができるようスタッフ間で情報を共有した支援をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境やライフスタイル経験されてきた事などご本人や家族に聞いたり日々の会話の中からその方にあった支援ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方のリズムに合わせて出来る事、好みの活動をスタッフは理解を一緒に活動したり、気の合う利用者様同士と一緒に過ごされる様子を見守ってり穏やか時間を過ごしていただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族ケアスタッフを交えた話し合いを行い主治医や看護師、管理栄養士、スタッフのアイデアや意見をプランに生かせるよう配慮しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、個別に管理しておりプランに基づいたケアを実践しています。変化や新たな気づきがあればその日の申し送り等で話し合いケアに繋がられるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの個性にあわせ、また状況に合わせた対応をしています。福祉タクシーや出張美容など状況に合わせて近隣の方へ協力していただき訪問していただいたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年開催される町の音楽祭に参加させていただいたり、老人会や町での催しへ出かけたり、婦人会や近隣の幼稚園、小学生のお神輿の来訪毎朝届けられる牛乳やさんに挨拶をしていただいたり多様な地域の方々と関わりを持っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院への定期受診、夜間や緊急時における相談、往診など細やかな医療支援を行っています。他科受診においても家族と相談を行ないながら受診を支援しています。また、協力医療機関の歯科往診などを支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心配なことがあればすぐに母体病院に相談することが出来いつでも医療支援を受けることが出来ます。また、従事している看護職員やスタッフと日々相談しながら健康管理を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの方が、かかりつけ医である母体病院への入院となる為入院、退院情報等スムーズに行なうことができ連携ができています。また、早期退院を希望された場合も協力体制が取れています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から施設の方針を説明しています。また毎月のお知らせにて、受診時の様子や日頃の健康状態をお知らせしています。ご本人や家族の心配なことがあれば主治医や看護師を含めた話し合いの場をもうけたりスタッフとも情報を共有した支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の勉強会への参加をおこないそのつど話し合いを行っています。日頃からあらゆる事故や災害に遭遇したときの対応についてシュミレーションを行い話し合いを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年/2回の消防訓練を実施、消防署、設備機器の業者や地域近隣の方の理解を得て避難訓練を実施。安全な非難口や方向の確認をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは、お一人お一人のこれまでの生活史を知り人生の先輩であることの認識を持って対応し言葉かけを行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からそれぞれの好みの物や行って見たいところなど思いをうかがうようにしています。言葉の不自由な方であっても視線をあわせコミュニケーションをとり思いをうかがうようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムにあわせその方のペースにあった過ごし方に配慮しています。趣味や自分の好きなことが出来る方へは、いっしょに取り組んだり、ご近所へ出かけたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族に協力していただき過ごしやすい衣服や好みの洋服を持参していただいています。長年のこだわりのヘアスタイルを整え支援している方もあります。また、これまで利用されてきた馴染みの美容室への支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を見ていただき野菜の名前や料理のお話をしたり、簡単な下ごしらえを行なったり、できない方であっても、味見をしていただいたり、盛り付けや配膳などできる活動をとおして楽しんでいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事を提供しています。また、健康状態や個々に合わせ、塩分の調整、嚥下状態に合わせた食事形態での提供を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の行動にあわせた声かけを行いケアを支援しています。自身でのケアが不十分な方は口腔内の残渣物の確認を行いケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員は理解し、しぐさや表情などサインのサインからトイレ誘導をおこなっています。リハビリパンツや尿取りの使用金額を把握し削減につながる工夫をおこない誘導を心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りや管理ボードによりスタッフ間で情報を共有し毎日排便、食事量の管理を行なっています。水分量や活動量などを考え、水分摂取においては、好みの飲み物、果物やゼリーを提供するなどの工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる事を声かけしています。それぞれの好みの湯温やタイミングを職員で共有しています。体の不自由な方には、機械浴での対応を行いゆったりと楽しんでいただけるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のリズムに合わせた休息や就寝時間を支援しています。暖房が嫌いな方には湯たんぽや家族による使い慣れた電気毛布を使用していただいたりそれぞれに対応した安息を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、処方箋と照らし合わせて確認を行い、薬の効能や用量など職員は理解をし、服薬支援をしています。また、些細な事であっても訪問看護しや母体病院へ相談できる体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や好きな活動をスタッフで共有し畑作業を一緒に行い収穫をおすそ分けに出かけたり、お裁縫や編み物が得意であった方からは教えていただいたり自信につながる活動を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域でのお祭りや催し物への同行を支援し知人と再会を喜ばれたり、馴染みの美容室への支援を行なっています。また、家族の協力をうけ地元の催しへの参加していただき、これまで参加してこられた老人会へ出席させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は、預かり金としてスタッフが管理していますが、外出が可能な方は、スタッフと近隣のお店にでかけ買い物を楽しまれています。またホームでは、買い物をおこなう行事(出店の屋台)を企画して買い物を楽しみ喜ばれました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1度の情報誌は、自筆が可能な方には一言をそえていただいたり、電話でのお知らせ等があるときは電話に出ていただいたり、訪ねていただいた知人の方やこれまでお付き合いのある方への年賀状などを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは、庭の緑を眺め季節の変化を感じる事が出来ます。これまで慣れ親しんできた草引きや畑の作業を楽しむ方もあります。廊下のベンチでは、朝日をあびて一日の始まりの体操を楽しんだりされ夜間は穏かに就寝できるよう照明を落とし静かな雰囲気心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日のあたるベンチは、気の合った方々の談話場所また、皆さんでの体操の場所となっています。畑の見えるウッドデッキでは、成長する作物を楽しみに眺めほっとされる姿があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家族の写真や愛着のあるものを飾られたり、安全に配慮した設置に心がけています。利用者様が自身が落ち着いて穏かに過ごせる居室となるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室トイレ等利用者の高さに合わせた手すりの設置がしてあり、自走、自立歩行に役立っています。日のあたるソファでは気の合った方々の憩いの場として活用されています。		